

< IFCA へのご寄付 >

皆さまから届く大切な寄付金は、私たちの3つの領域にわたるプロジェクトの事業費や、団体運営のために活用させていただきます。

1) ユース：社会的養護の当事者

2) ケアギバー：子どものケアにあたる人たち

3) プロフェッショナル：子ども家庭福祉の仕事にたずさわる人たち

ご寄附は、下記の銀行口座にお振込くださいよう、
お願ひいたします。

三井住友銀行 渋谷駅前支店 234 普通 4823049
インターナショナル フォスター・ケア アライアンス

◎ IFCAへのお問い合わせやご意見は、
下記のメールアドレスまで、お寄せください。

info@ifcaseattle.org

◎ IFCAのホームページ

www.ifcaseattle.org

住所：〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-33-6-202



IFCA は米国の NPO 法人です。
IFCA-Japan と連携し、日米
両国で事業を推進しています。

*Connecting Foster Youth,
Caregivers and
Professionals Overseas*

私たちの ビジョン

IFCAは、すべての子どもと
若者が愛され、支えられ、
自身の可能性を最大限に発揮で
きる社会の実現を目指します。



IFCA のミッションは、国を超
えた 多様な考え方の交流、協働、
つながりづくりを通じて、子ど
も家庭福祉のシステムを前進さ
せることです。

IFCA は、2016年、米国連邦政府
アダプションインスティチュートの
名譽ある賞、"エンゼル・イン・アダプ
ション賞"を受賞しました。

ユース

社会的養護の当事者

IFCAは、日本とアメリカの児童養護施設や里親家庭で育つ子どもたちと、ケアを離れて自立した若者たちの、交流と協働の実現を目指し、2013年、両国でユースチームを結成しました。

それ以降、社会的養護の当事者たちが、年に1度お互いの国を訪ねて講演や研修などの活動を展開しています。そのユース主導型の活動は、文化や言語を越えてユース同士の絆をもたらしただけでなく、かれらの力強いリーダーを育て、子ども家庭福祉制度や政策の改善へと結びついてゆきました。

日米のユースたちが大人の伴走者とともに企画した「ユース・ボイス」の重要性をうたったえるシンポジウムやワークショップは、今までに、50以上開催され、4000人余の人たちに大きなインパクトをもたらしました。

日本国内だけでなく、グローバルな立場から、当事者活動を体験したい方、また、ユースプロジェクトへのお問い合わせは、IFCAのメールアドレスより、ご連絡ください。



IFCAのユースたちは、自らの手で、バイリンガルのブログ・ウェブサイトを立ち上げました。日本とアメリカのフォスターユースたちが、社会的養護の制度を生き抜くことについて、多くの人たちと分かち合うために、世界に向けて発信しています。子ども家庭福祉の専門家をはじめ、さまざまな立場にある人たちが、このサイトのストーリーを読み、当事者の声に耳を傾けてくださることを願っています。

www.myvoiceourstory.org

MY VOICE  OUR STORY

Perspectives of Youth Who Have Experienced Out of Home Care

www.myvoiceourstory.org

ケアギバー

子どもの日々のケアにあたる人たち

IFCAは、安全な暮らしが健やかな発育は、子どもたちの基本的な人権だと考え、安定性のある家庭的な環境を確保するために、子どもの日々のケアにあたる里親や親族に、最良の支援を届ける活動を広めています。

ケアギバーたちの孤立を防ぎ、地域のリソースを駆使して支えることは、日米に共通するテーマです。里親が減少し続けたアメリカでは、新しい里親を募り、維持するための最善策を長年にわたって模索してきました。日本は、年々増加する子ども虐待への対応だけでなく、児童の育つ環境を、大舎型の児童養護施設から里親などの「家庭的な環境」へ方向転換するという大きな課題を担っています。

現在 IFCAは、モッキンバードソサエティという、ワシントン州シアトルのNPOが考案した効果的な「里親連携型の支援モデル」を日本に導入する計画を、他機関と協力しあいながら進めています。

また、ウェブサイトと出版物をとおして、日米両国の養育者の現状を伝え、お互いの国で虐待を受けた子どものケアにあたる人たちが、アイデアや思いを表現、交換できる場をつくりました。日本とアメリカでは文化的な違いはあっても、養育者をとりまく現実には共通点が多くみられます。日英両国語で発信される貴重な情報は、IFCAのウェブサイトから、ご覧ください。



プロフェッショナル

子ども家庭福祉の仕事にたずさわる人たち

IFCAは、日本とアメリカの子ども家庭福祉にたずさわる専門職が、お互いの知識や経験を生かした交流と、国際的な共同プロジェクトを推進できるよう、プロジェクトの構想と計画だけではなく、経済的支援も行い、両国の子どもや家族に、最良のサービスやプログラムを提供しています。



IFCAは2012年、アメリカから、最初のトラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)の講師を日本に招聘し、3つの都市で3日間の研修ワークショップを実施しました。

TF-CBTはアメリカで開発され、臨臨床実験でその成果が認められた、13歳から18歳までの子どもと、その保護者のための画期的なトラウマ療法です。アタッチメント理論・発達的神経生物学・家族療法・エンパワーメント療法など複数の治療モデルが柔軟に組み合わされており、トラウマによる反応を安全に乗り越えるためのスキル形成と段階的エクスposure (Gradual Exposure) が車の両輪のように機能し、子どもが自らの課題に立ち向かい乗り越えていく力を養うものです。

IFCAは、現在までに3名の米国講師を日本に招き、各地でワークショップを開催。その受講生は、400名を超みました。2018年より、米国講師のみでなく、日本で新たに資格取得をした専門講師による、地域に根ざしたTF-CBT拡充活動を展開しています。

TF-CBTをはじめ、IFCAのプロジェクトについて情報をご希望の方は、ホームページより無料のEニュースレター配信にご申請ください。